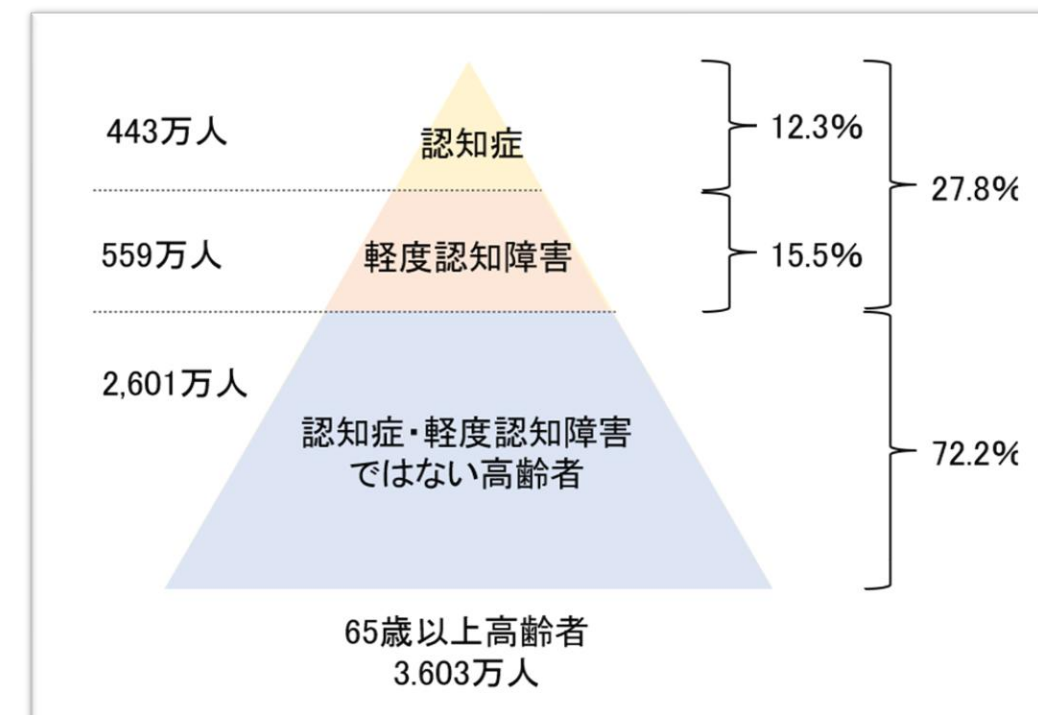
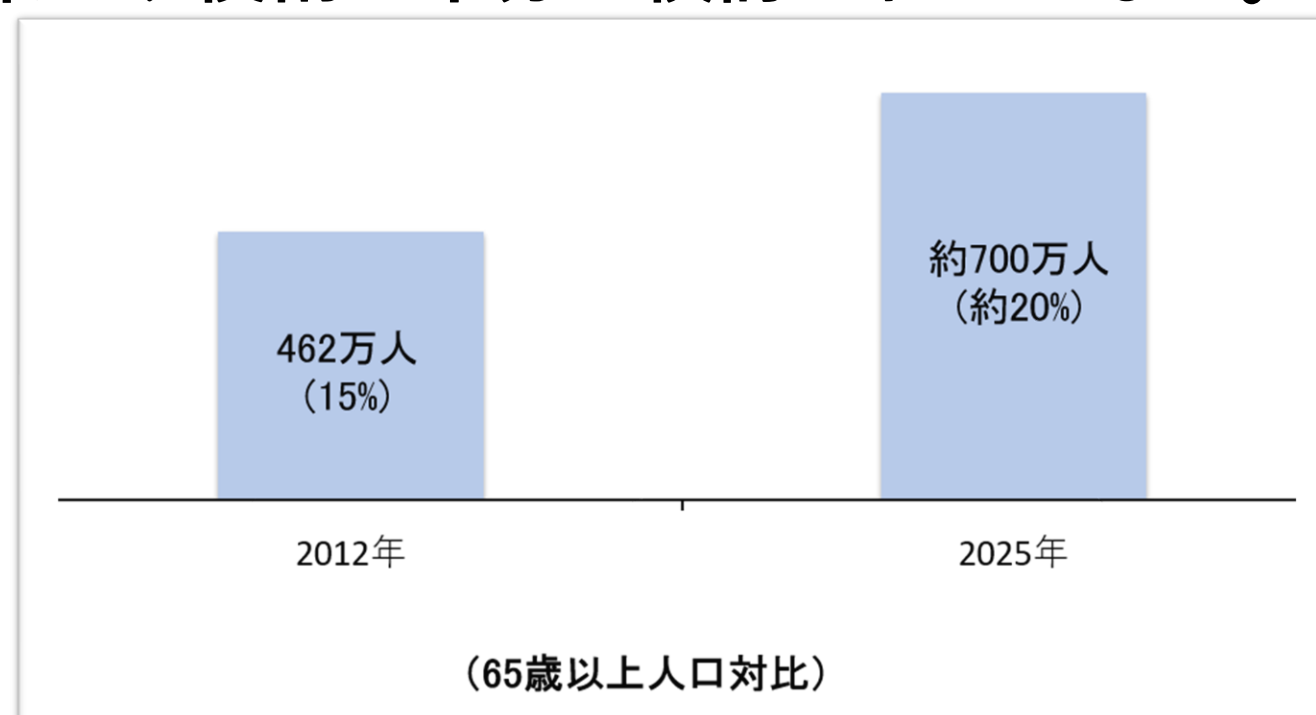


脳番地を刺激することにより認知症を改善・予防する空間

1 背景

日本では認知症高齢者が増加し、65歳以上の約28%が認知症または軽度認知障害を有している。一方で、近年の研究では認知症発症率の低下も報告されており、生活環境や日常的な刺激が脳機能の維持に関与する可能性が示唆されている。しかし、医療・福祉以外の視点から、建築空間が果たす役割は十分に検討されていない。



2 目的

脳番地の考え方を建築空間に応用し、五感や身体行為を通じて脳を自然に刺激する環境を構築することで、認知症の予防および進行の緩和する目的。





曲線装飾

3 FLに共同銭湯
 ・銭湯のリラックス効果と刺激は認知症予防効果がある。
 ・建物と中心におくことで、建物の内側へ行く目的をつくる。

階段
 ・歩き運動を促す。

天井の高さの変化
 ・気持ちの変化
 美術館などで使われる手法

ダイアグラム

分岐する廊下

採光条件の変化

暗い廊下

曲線の壁

天井の高さの変化

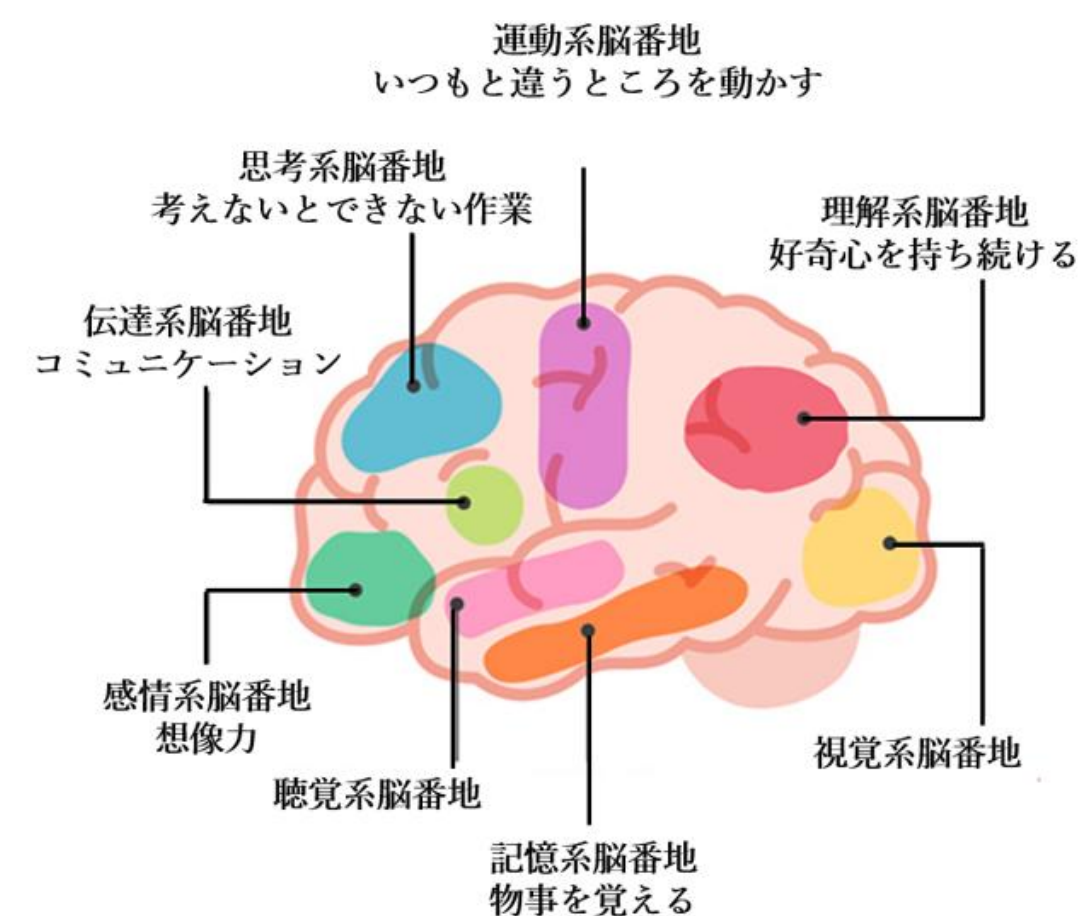
回遊できる廊下

選べる動線

運動となる階段

3 定義・位置づけ

脳番地とは、神経細胞の働きと機能のまとまりである。本研究では脳機能を8系統に整理し建築化を試みる。ここでの改善・予防とは、認知機能低下を緩やかにすることを指す。



	A 思考	B 理解	C 運動	D 感情	E 伝達	F 聴覚	G 視覚	H 記憶
分岐する廊下	●	●		●				●
採光条件の異なる空間		●		●			●	(●)
壁の素材の変化		●		●			●	(●)
隙間風		●		●		●		
暗い廊下	●	●		●				●
天井の高さの変化		●	●	●			●	
雨音・水音・草木の音		●		(●)		●		
曲線の壁				●			●	
床の凹凸	●		●					●
回遊できる廊下	●	●	●	●	●		●	●

4 敷地計画

愛知県高浜市呉竹町2丁目7-70

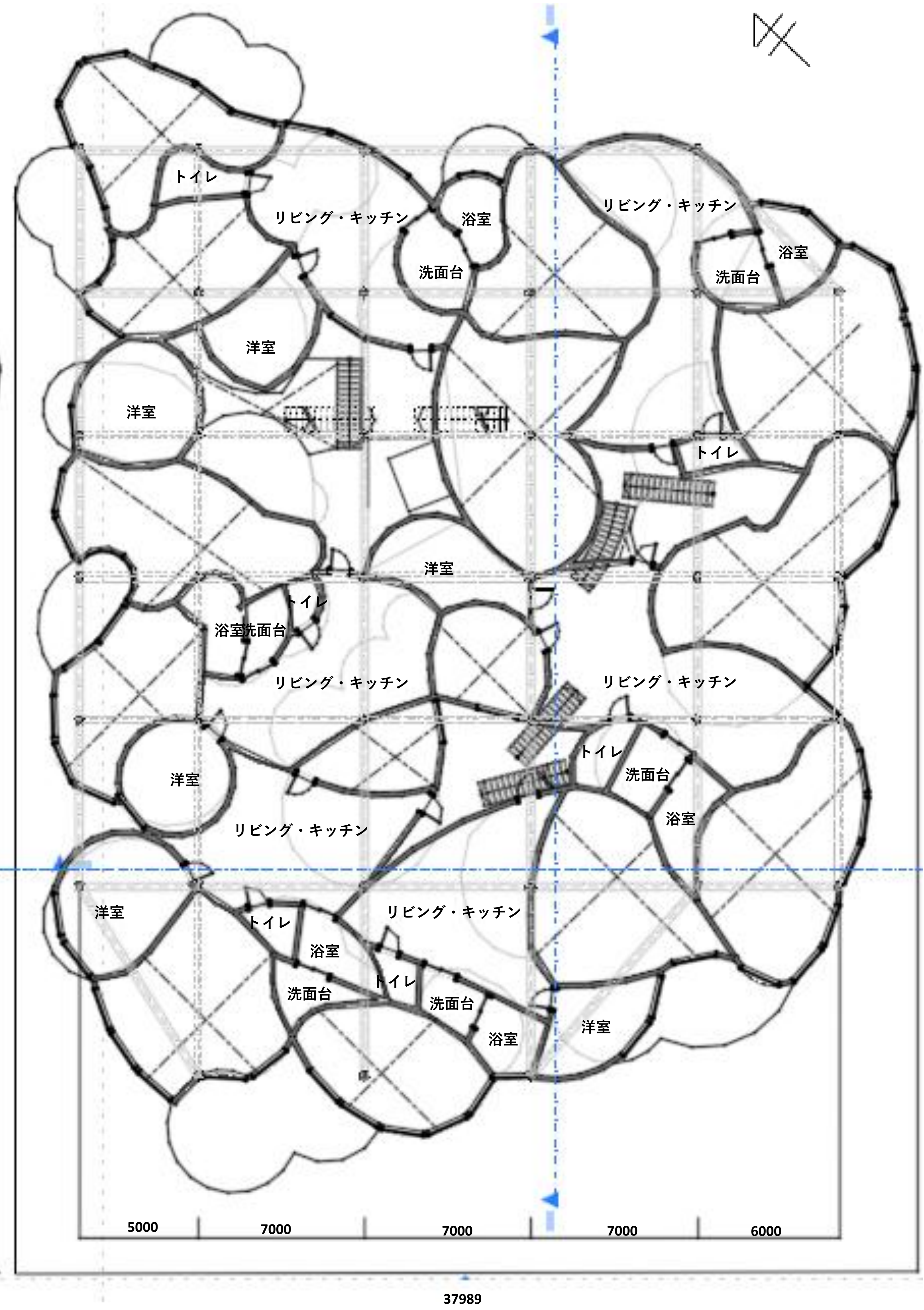
現在は未利用の空き地である。名鉄三河線吉浜駅から徒歩7分圏内にあり、公共交通によるアクセス性を有する。住宅地に囲まれた生活圏内立地という特性を活かし、日常生活と連続した形で利用可能な建築を計画。



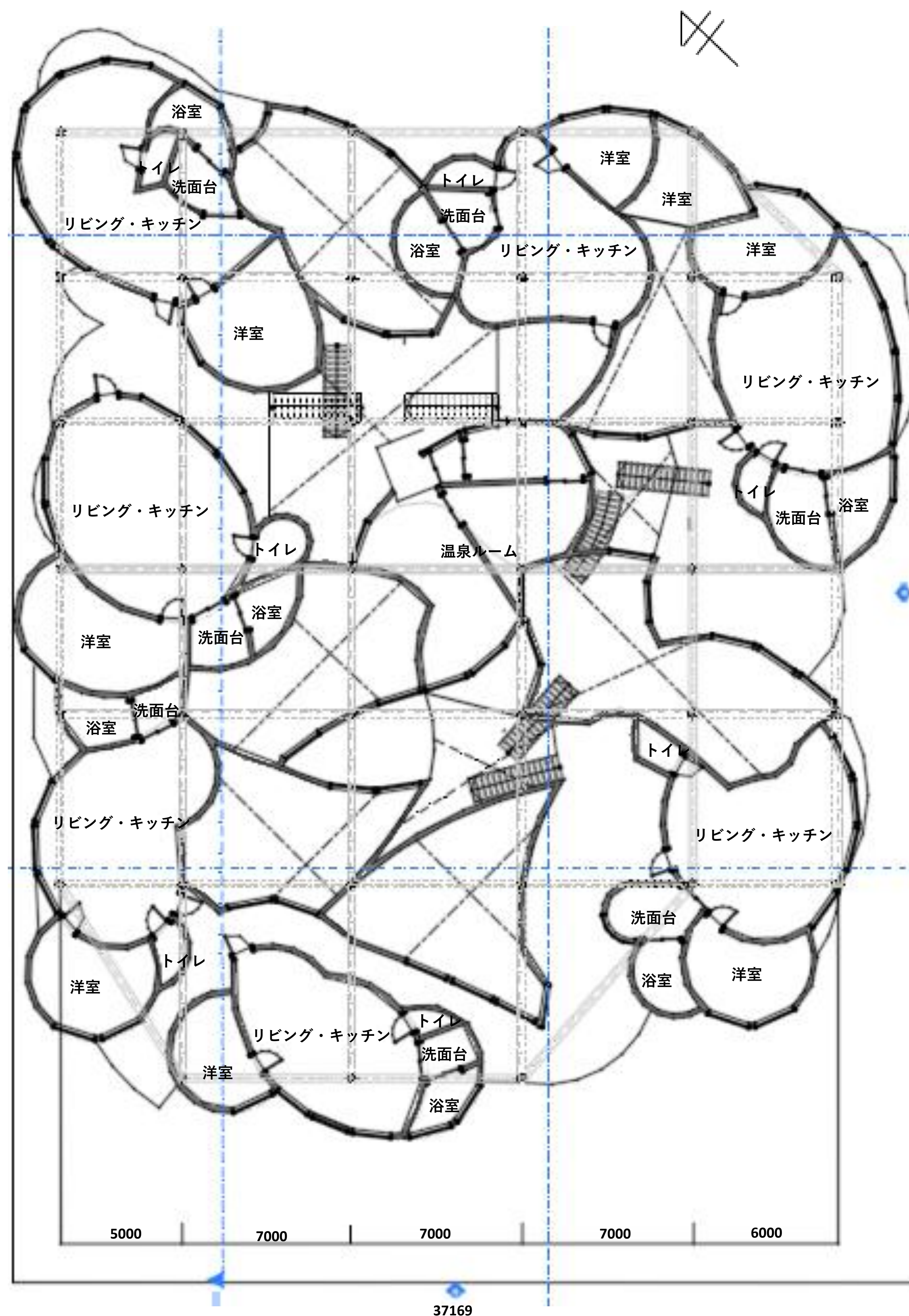
4



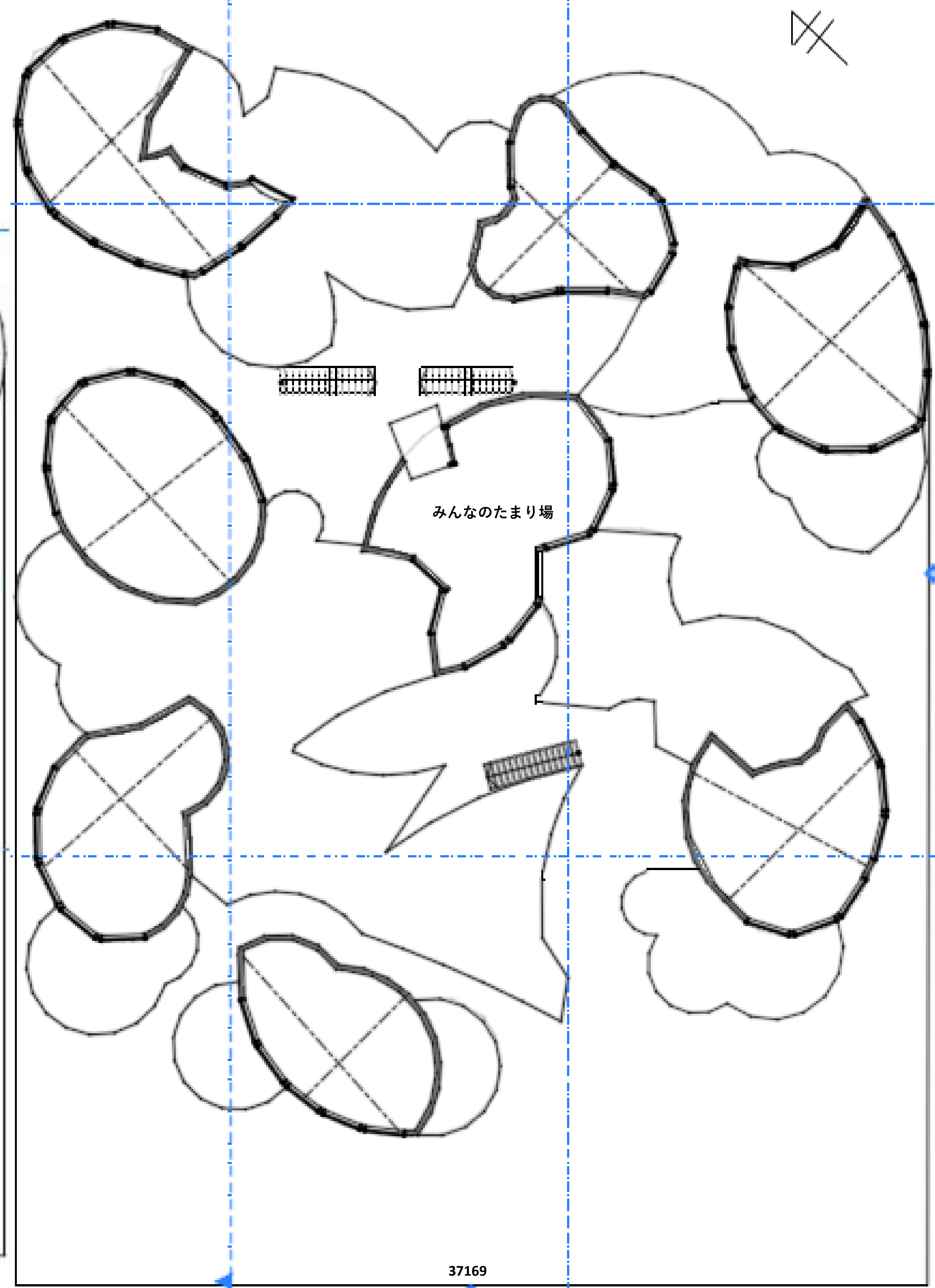
平面図 1/100 1 FL



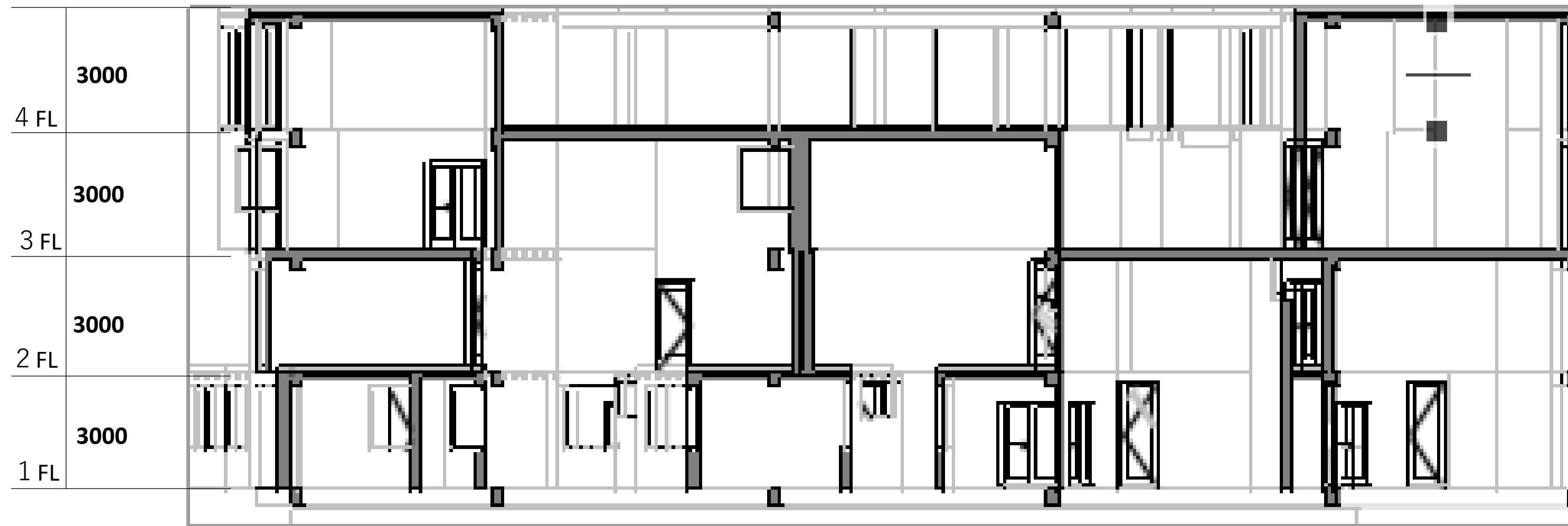
平面図 1/100 2 FL



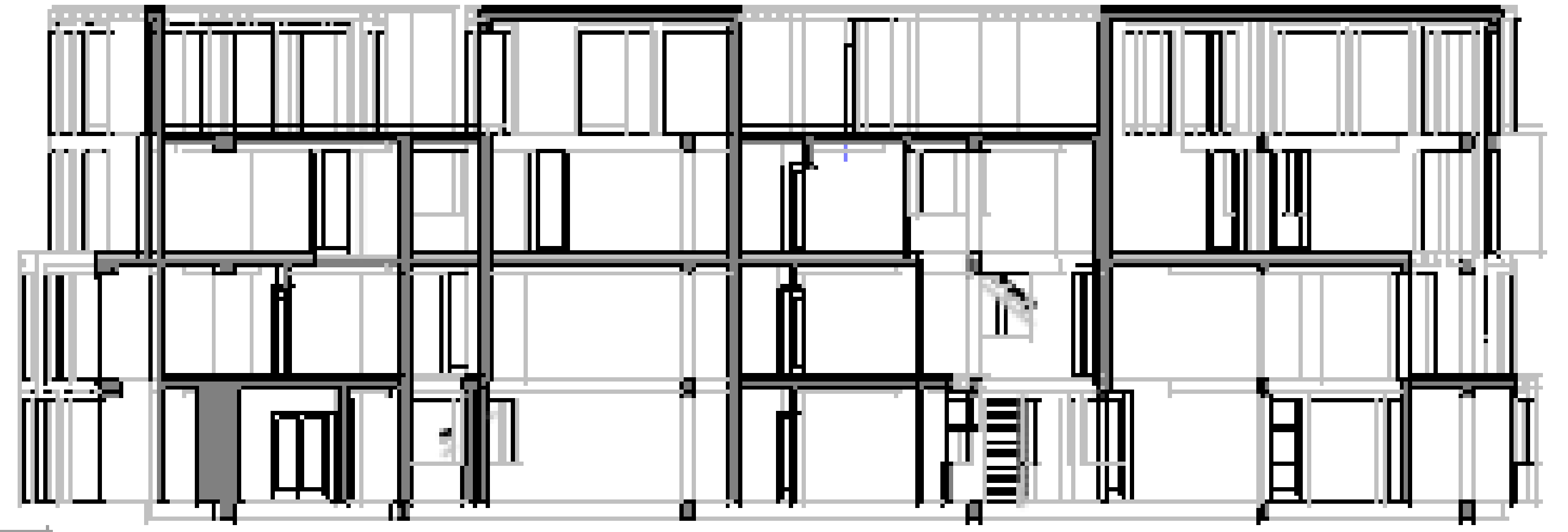
平面図 1/100 3 FL



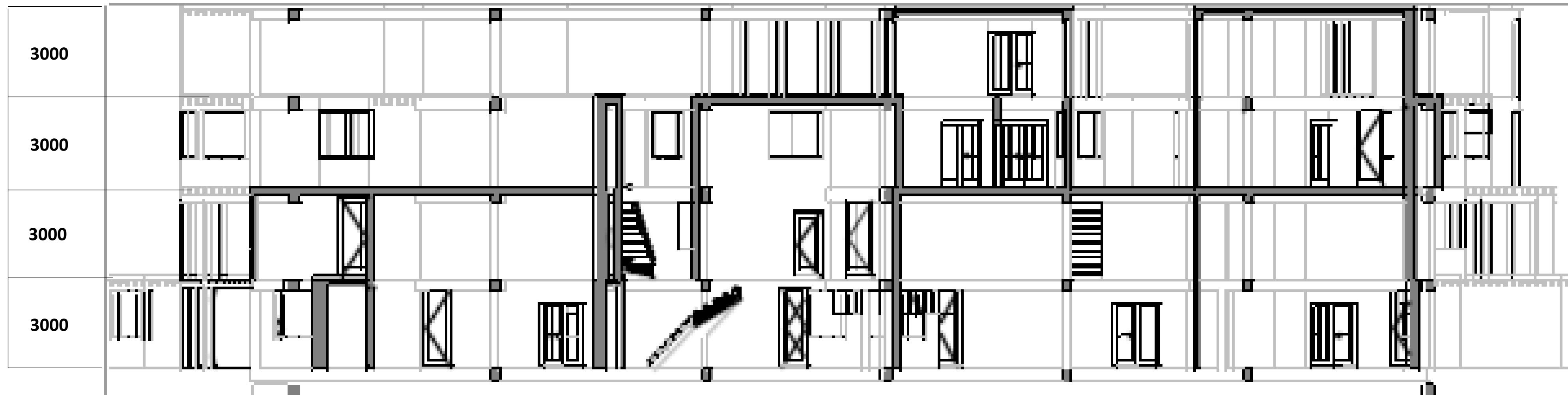
平面図 1/100 4 FL



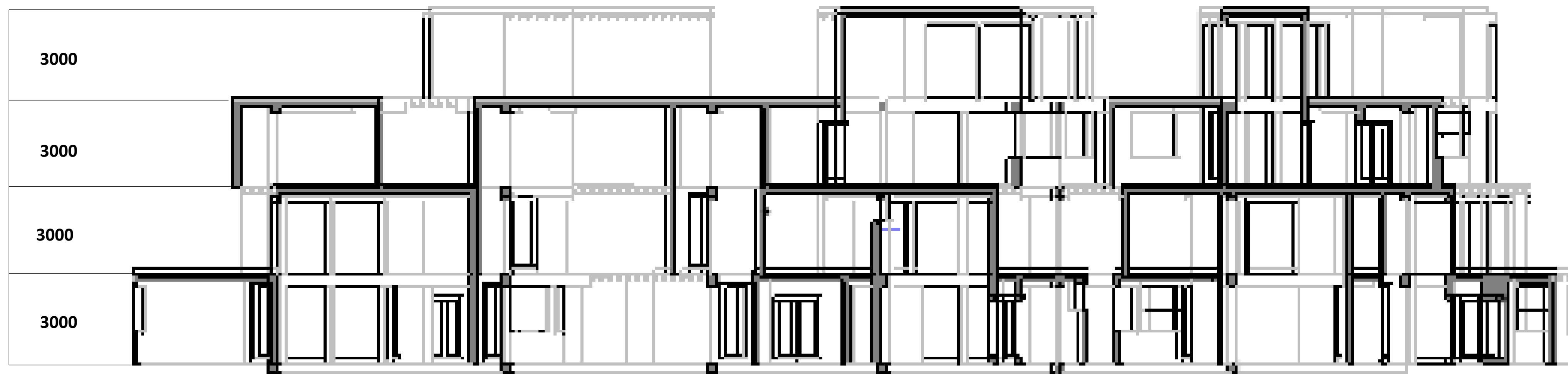
断面图 1/100 s-0 1



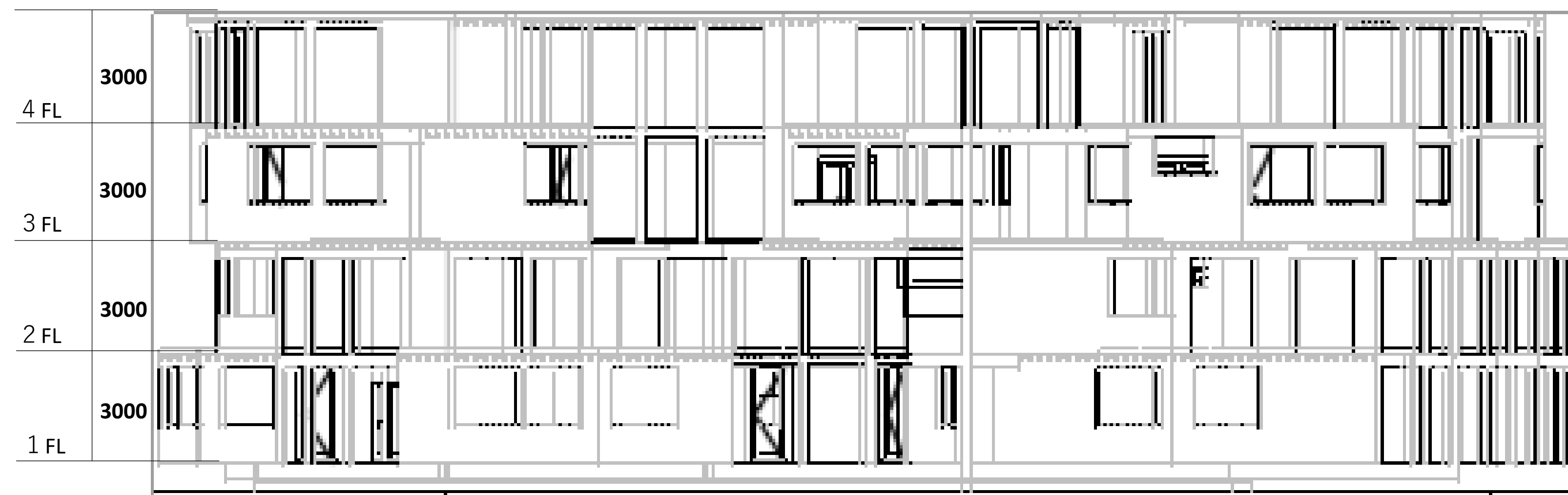
断面图 1/100 s-0 3



断面图 1/100 s-0 2



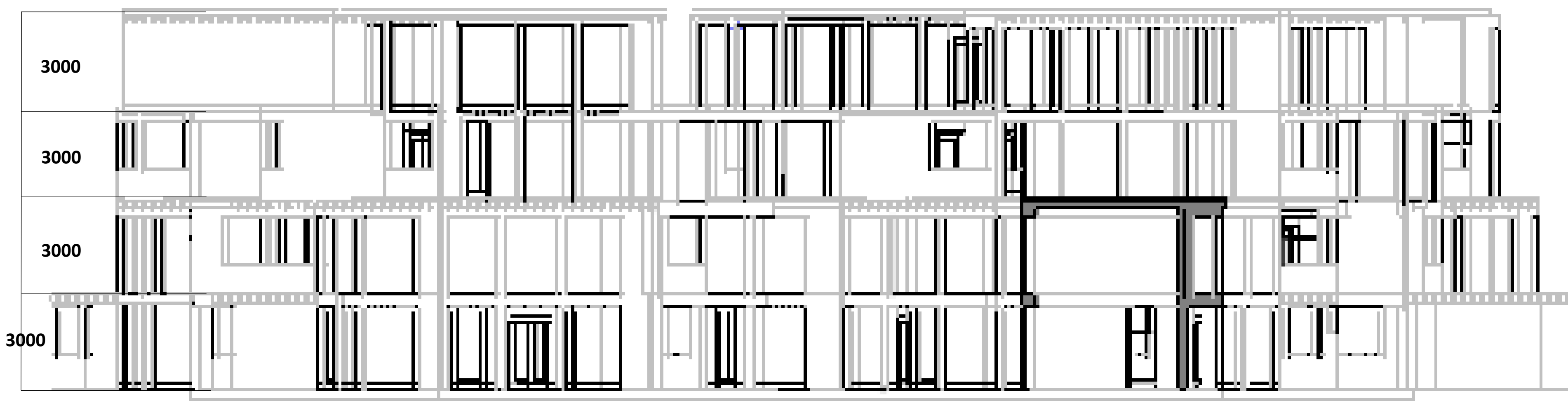
断面图 1/100 s-0 4



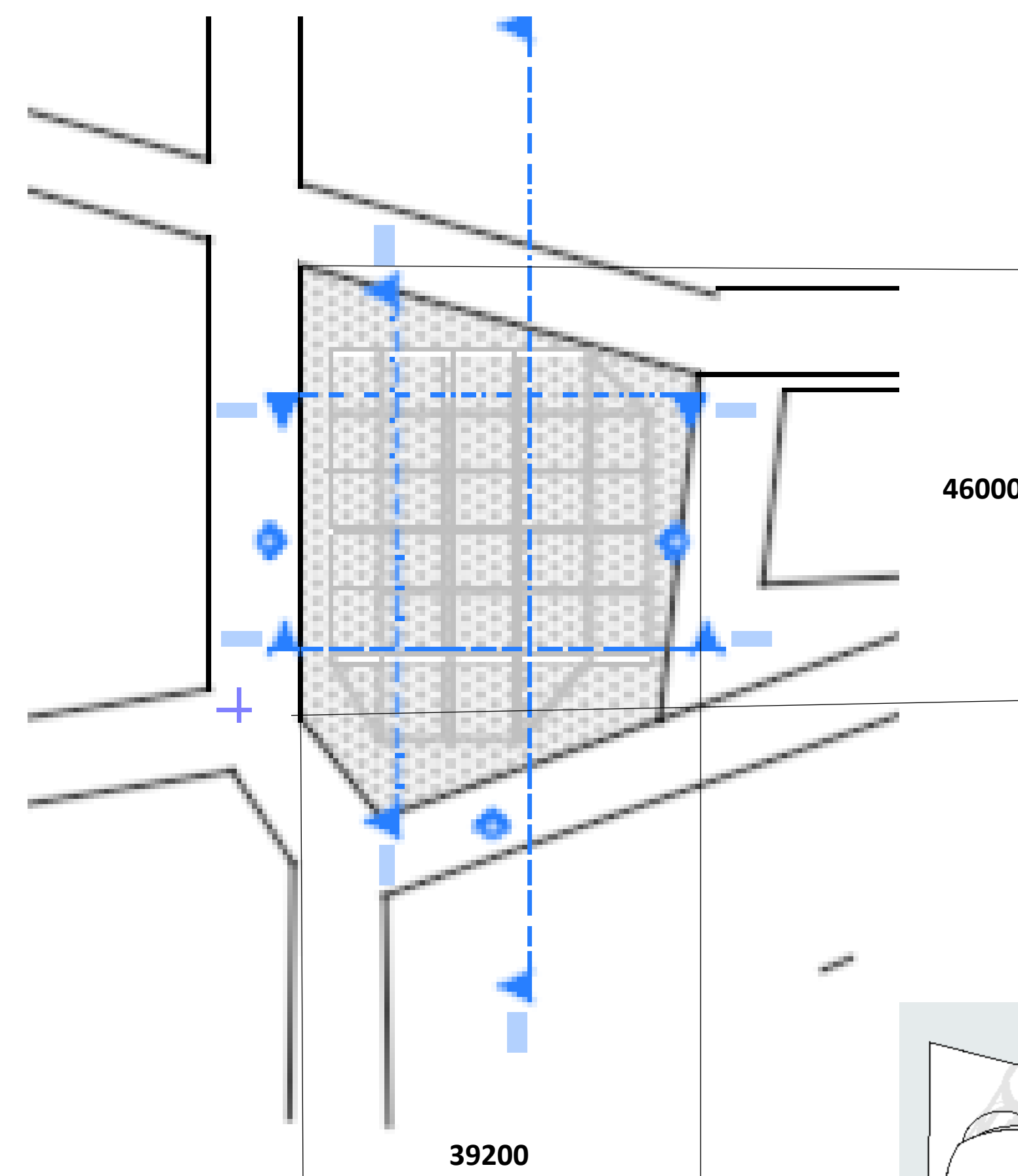
立面图 1/100 E-0 2



立面图 1/100 E-0 4



立面图 1/100 E-0 6



配置图 1/500

